

転会にあたって



私の信仰の歩み

岩井 建 作

私の信仰生活は、父・牧師故
岩井文男（元新島学園中・高校
長）から岐阜の坂祝（現中濃）
教会で13歳の時、洗礼をうけて
70年になります。牧会生活は同
志社神学部を出て58年です。そ
の間、広島流川（2）、呉山手
（5）、岩国（13）、神戸（24）、
川和（2）、明治学院（10）の
各教会で牧会の務めを果しまし
た（隠退後2）。育った農村教
会で養われた信仰は、家族の一
員として生活の糧のために農作
業をした「薩摩芋」と「麦」に
象徴されます。前者は、社会の
構造的矛盾をいやというほどに
知らせてくれました。以後宣教
を社会的視野で思考し、教団で
は「社会派」と呼ばれ、「差別

撤廃」、「教会の体質改善」、「原
水爆禁止運動」、「護憲」、「戦争
責任告白の発議」、「米軍基地撤
去・反戦米兵支援」、「沖縄」
（著書『兵士であるより人間で
あれ』にまとめる）、「阪神大震
災救援活動」（著書『地の基震
い動く時』にまとめる）、「脱原
発」、「震災銭湯を作る運動」に
取り組んできました。後者「麦」
は信仰的実存の象徴的表象とし
て大事にしています。その信仰
の方向性を教団・教区（西中国・
兵庫・神奈川）の宣教活動にも
反映させてきました。その間各
教会幼稚園を通じ、「幼な子」
からの視点を大切にしつつ、キ
リスト教幼児教育の課題に取り
組みました。同時にキリスト教

主義大学では「キリスト教概論」
などの講義をさせて戴きました。
宣教と教会形成を共に担った連
れ合い溢子には言葉にならない
感謝の思いを抱いています。今、
信仰のルーツ、母牧江（旧姓、
新藤）の祖父松井十蔵（私から
は曾祖父、相野田）が海老名弾
正から受洗した安中教会に籍を
置くことになり、四代目のクリ
スト者として感無量の思いがし
ます。現在、入所している社会
福祉法人新生会の施設には、原
慶子理事長が溢子の義兄住谷馨
（同志社大・老人社会福祉）の
許で学ばれたということが契機
となり、導きで入居することに
なりました。出席教会に縁の深
い安中教会を与えられたことは、
深い神の導きであると思ってい
ます。父・子二代共に同志社神
学部ですから、信仰と学びのル
ーツは「新島襄」です。しかし、
私が同志社を卒業して「奉仕」
した教会は、メソジスト派、長
老派、両者の合同教会の伝統の

教会です。日本基督教団は19
41年宗教団体系法の許、国家の
要請を契機に30余派の福音主義
教会が合同した合同教会です。
「神戸」は会衆派でしたが、ア
メリカンボード派遣の宣教師D.
C.グリーン設立です。アメ
リカから会衆派教会の信仰を携
えてきた新島襄とは別ルートで
す。教団の中でもいろいろな教
派の伝統の教会に接することが
出来たことは、信仰の多様さに
触れる恵みでした。先般（1月
新島襄没後126年記念日）に
講壇に立たせて戴き、改めて新
島襄を学び直したことを感謝し
ています。

